vol.91
2016 年 3 月号

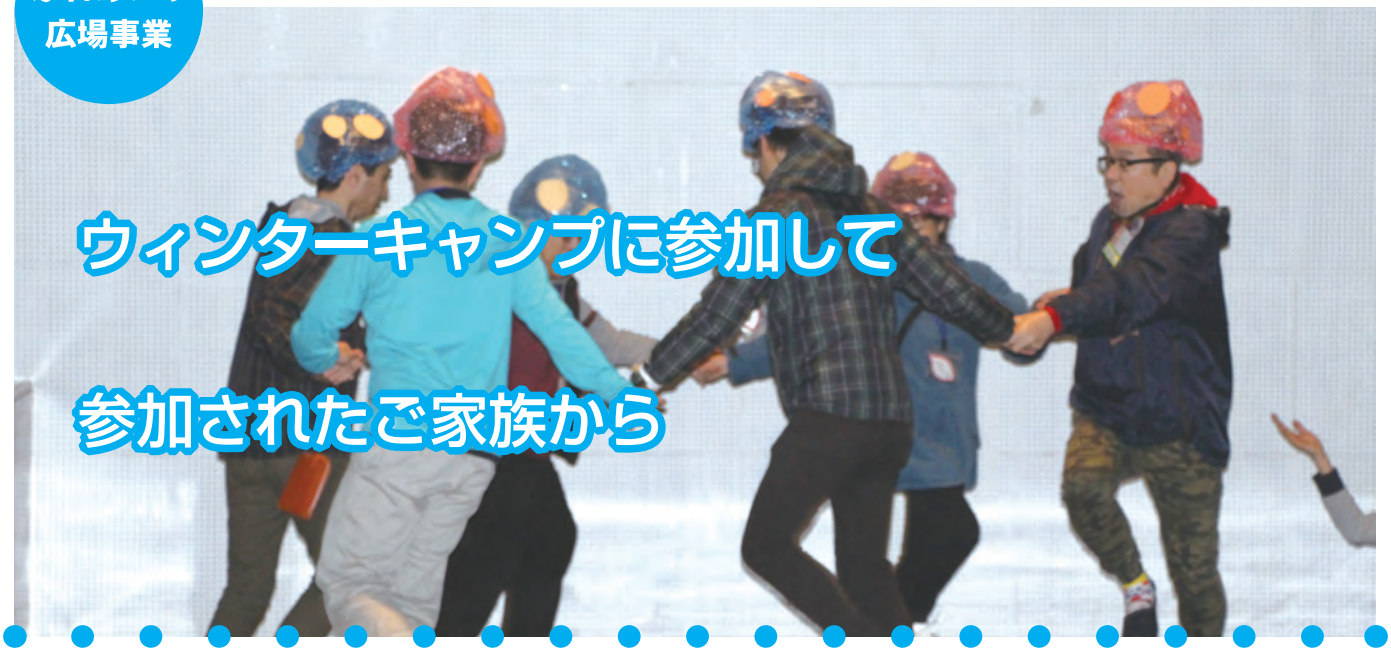
公益財団法人国際障害者年記念 ナイスハート基金
〒 105-0022 東京都港区海岸 1-4-26 ゆうらいふセンター
電話：03-3434-2170　FAX：03-5401-0681
URL:http://www.niceheart.or.jp/

ないすはあと

「ウインターキャンプ２０１６の様子」

表紙／写真　ウインターキャンプ２０１６ …… 1
報告／ウインターキャンプ２０１６
　ウィンターキャンプに参加して～参加されたご家族から …… 2
　山田　遥子さん（実行委員／明星大学教育学部）…… 4
平成２８年度事業計画…… 6
ふれあいのスポーツ広場日程 / 賛助会員お礼 …… 8

ふれあいの
広場事業



ウィンターキャンプに参加して

参加されたご家族から

今年のウインターキャンプは昨年の４月頃の一通のメールから始まりました。
今回は参加する親もメンバーに入れて企画会議を行いたいとのこと。応援の受け手がしてくれる相手に何か言う事は、言い方を間違えると嫌な人間になってしまいそうでちょっと躊躇しましたが、いままで５回で受けた恩義？に答えるつもりで企画会議に参加することとしました。

その当日、過去のウインターキャンプの話にもなったのですが、自分にとってやはり一番記憶に残っているのは最初に参加した第一回のウインターキャンプです。当時の私の子供は４歳でしたが、まだ自分の名前言うのが精一杯で、とても同世代の子供と遊べることができず、なにか参加できるイベントが無いか色々と探している時期で、そんな中で参加したイベントでした。子供を明星大学の学生に任せ、その間親はリフレッシュするというのが、キャンプのコンセプトの一つでしたが、当時の自分の子供が初めて会う学生さんとどう接することができるのか、親としても興味津々でおとなプログラムをキャンセルし、体育館の隅の方からわからないように見学させていただきました。ちゃんと自分の子供がコミュニケーションとれていた事に嬉しくて、今でもよく覚えています。その時見ていた親は自分達ぐらいで、自分の子供を担当してくれた学生の方が信用できなかったわけではなかったのですが、ちょっと悪いことをしたかなと今では少し反省しています。

当時聞いた話として興味深かったのが、このキャンプは障害のある子供のいる家族を応援することだけでなく、先生を目指す学生さん達にも子供たちに接する機会を増やして後学の知識を増やすという意義もあるという話です。これを聞いていつも子供の事で周囲に気を使っている親としては、たとえ建前だとしても、すこし肩の荷が下りたというか参加に前向きな気持ちになれました。

今年の企画会議では、メインスタッフのメンバーの方とも少しお話しさせていただきましたが、皆それぞれの思いを持って参加されており、卒業してからも参加されている元学生メンバーが少なくない事実を鑑みると、皆にとっても楽しいキャンプになっているのだなと改めて感じました。
肝心の今回のキャンプの感想です。最初に到着して気が付いたのが、例年混雑している玄関に緩和策としてビニールシートが敷いてあったり、当日雨の日

対策に体育館との行き来用に傘を用意されていたり、細かな気配りが追加されていた事です。その時点で今年はちょっと違うな、と感じながら受付を済ませました。今年の担当の学生の方とお会いし、子供と一緒にお昼のカレーを食べ、体育館へ移動です。下駄箱は既に子供のグループ分けがされて親もそこへ入れるのですが、子供のグループを事前にチェックしていなかった私は、ちょっと迷ってしまいました。始まりの会が終わった後、大人は別行動です。今年も大人プログラムは温泉を選ぶことができたので、温泉＋ビールにて羽を伸ばすことが出来ました。ちょっと伸ばし過ぎて、帰ってきた後寝てしまい、星山先生のプログラムに遅刻してしまったのはリラックスしすぎでした。

二日目の家族プログラムのクラフトも人数が減ったおかげか、大きい混乱もなく、ゆとりを持って楽しんだチームが多かったように感じました。作った写真立ては、今我が家の玄関に飾られております。スムーズに進んだキャンプの最後のお昼のサンドイッチに行列ができたのはその味が成しえたといったところでしょうか。本家サブウェイ？とは違った味で、美味しかったです。その後チーム毎の発表があり、皆楽しい思い出を話していました。

今年の全体的な感想としては、やっぱり人数調整は必要なんだなぁという点です。スタッフの動きにもゆとりが感じられたりして全体にあった慌ただしさが無くなり良くなったなぁと思いました。あとは参加者に対しての細かい気配りです。そういった優しさが感じられたキャンプでした。

「サンドイッチ作り」

そんな今年のキャンプですが、残念ながら定員が設定され、抽選により初めて一部の方が参加できなくなりました。個人的な考えですが、来年は今年行けなかった方が優先されるような、そんなルール作りも来年に向けてあったらいいなぁと感ました。

最後ですが、お忙しい中、このキャンプを作っていただいた、日産労連の皆様、明星大学の皆様、星山先生、ナイスハート基金の皆様、各ＮＰＯ団体の皆様、御殿場西高校の皆様、楽しいキャンプをありがとうございました。来年のキャンプも楽しいイベントになる事を願っています。

ウィンターキャンプ２０１６実施概要とスケジュール

１日目

11:30　集合／昼食
13:00　開会式～全体プログラム
13:25　家族プログラム
14:50　子どものプログラム～グループ別の遊び～
　　大人のプログラム～そば打ち体験／温泉満喫～
16:50　子ども入浴
18:30　子ども夕食 / 大人入浴随時
19:40　夜のプログラム～大人の発表／体を動かす時間～
20:40　大人懇談会（星山先生のおはなし）
22:00　実行委員会 / 大人懇親会

２日目

07:00　起床
08:00　朝食
09:00　子どものプログラム～自由遊び～
10:00　家族プログラム～木工による写真立てづくり～
12:00　昼食
13:50　閉会式～全体プログラム
　　～グループ別の振りかえりと子どもによる発表～
15:00　解散

主催　日産労連
　　NPO 法人日産労連 NPO センターゆうらいふ 21
　　明星大学星山ゼミ
　　公益財団法人国際障害者年ナイスハート基金

実施主体　ウインターキャンプ 2016 実行委員会

協力　NPO 法人土に還る木・森づくりの会
　　NPO 法人自立支援センター歩歩路
　　学校法人東駿学園御殿場西高等学校
日程　平成 28 年 2 月 20 日(土)～21 日 (日)
会場　ゆうらいふ御殿場（静岡県御殿場市）
参加者　25 家族　79 名
　　おとな　38 名　こども　41 名
実行委員　９３名

ふれあいの広場事業

ウィンターキャンプに参加して

明星大学教育学部
山田　遥子

毎年、降雪の心配をしながらキャンプの準備を行いますが、私は雪国出身のため、参加者全員で雪遊びをしたら楽しいのになあ、と思いながら周りとは相反して降雪を少しばかり楽しみにしておりました。そんな心配や期待も裏切られ、一日目は雨、二日目は晴れ、という天候の中、大きな事故・怪我なくウィンターキャンプ 2016 を終えることができました。

私は３回目のウィンターキャンプであり、今年はプログラムディレクターとしての参加でした。私は人の笑顔を見ることがとても好きです。笑顔で笑っている人の幸せを分けてもらっているような気分になり、私も幸せになります。そんな、なによりも大切にしたい“笑顔”あふれるキャンプになったらいいな、参加するすべての人たちの中で新しい関係性が作れるキャンプになったらいいな、と思いながら始めました。

今年は、夏からコアスタッフとして昨年の反省を今年のキャンプにどうしたら活かすことができるか考えるところから始まりました。企画会議にて、学生だけでなく参加者、事務局が一丸となってキャンプの準備を進めました。

「おやつ作り」

一日目に行った家族プログラム１では家族とスタッフが一緒になって楽しい時間を共有できていたことがとても印象的でした。キャンプの最初に家族とスタッフで話したり、遊んだり、笑いあえる機会は新しい試みでしたが、多くの家族が笑顔たくさんでほっこりする場面がありました。

また、そのあとの子どものプログラムでは、子どもたちが自分で作るおやつ作りを行いました。日常生活ではあまり経験することのない、バームクーヘンや焼きマシュマロを自分たちの手で作り、食べるという美味しい活動をしました。「おやつ作り楽しかった！」とたくさんの子どもたちが言っていたので、学生も手作りのおやつ作りは思い出となる、いい活動だと感じました。

夜のプログラムでは実行委員長の山口さんをはじ

「家族プログラム」

「集合写真」

めとするスタッフがきのこに扮して、ダンスをしたり、学生の生演奏による『ドレミの歌』を歌ったり、ごろごろしたり。夜だからこその雰囲気を感じつつ、まったりとゆっくりとした時間の流れの中で一日目を終了しました。

二日目はグループごとの活動を行いました。外で鬼ごっこをしたり、ロビーでゆっくりしたり、体育館でグループごとに遊んだり、子どもの意思や気持ちを尊重しつつも、このキャンプでできた新しい友達との時間を楽しんでいる様子が見られました。

最後の家族プログラム 2 では、家族ごとに写真立てを作る活動を行いました。お父さんが活躍している姿や、ひとりひとりの個性あふれる作品ができていて、いつもとは違う家族の一面を見ることができたのではないでしょうか。

閉会式では、二日間の思い出を一枚の紙に表現し、たくさんの子どもたちに発表してもらいました。「こんな楽しいことがあったよ。」「また来年も来たいな。」笑顔とともにこんな嬉しい言葉をたくさん聞くことができてとても幸せを感じました。

大学生として最後のキャンプはとても大変でした。準備期間は、楽しいこともありましたが、それよりもつらいことのほうが多かったように感じます。それでも、二日間を通して、子どもたちの笑顔、家族の皆さんの笑顔、スタッフの笑顔。そんなたくさんの笑顔を見ることができて、心の底から「半年間、準備してきてよかった、あきらめずにやってきてよかった。」と思えました。

このキャンプを通して、私たち学生も新しい仲間を見つけることができました。参加された皆様の中で、子ども同士、保護者同士、スタッフ同士、またそれぞれで新しい関係性が生まれつながっていけたら幸いです。

最後になりますが、ウィンターキャンプ 2016 を企画・運営する中で、日産労連、ナイスハート基金、星山先生、NPO 土に還る木・森づくりの会、OB の方など様々な方に支えていただき、たくさんご迷惑をおかけしました。そして、最後までお力添えしていただきました。笑顔あふれるキャンプであり、とても幸せをもらったキャンプです。ウィンターキャンプ 2016 に関わってくださりましたすべての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

「完成品　写真立て」

平成 28 年度
事業計画

平成 28 年度ナイスハート基金事業計画

1．ふれあいの広場事業

（１）ふれあいのスポーツ広場の実施

障害の有無に関わらず、軽スポーツを通じ、共に楽しみ、交流することを目的とし、当基金設立時より実施している事業です。

平成４年度以降は「全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）」より物心両面にわたるご支援をいただきながら、全国的に展開しております。昨年度には開催地域も全国３８会場までに拡大し、初めて鳥取県において開催することができました。

障害の種別や程度でなるべく影響の少ないプログラムとして、同志社大学スポーツ健康科学部の藤田紀昭教授を中心とする大学生のみなさんに、独自のユニバーサル・スポーツプログラムを提供いただき、実施すると共に、公益社団法人日本エアロビック連盟、日本障害者フライングディスク連盟、仙台大学障害者スポーツサポート研究部 Co-Act. のみなさまに、ユニバーサルなプログラムを提供いただいております。多くの関係者、ボランティアの皆様に支えられ、今年度においては下記の都道府県において開催を計画しております。

実施時期：平成 28 年４月～平成 29 年３月
開催地域：北海道、青森、岩手、秋田、宮城、福島、栃木、群馬、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、富山、石川、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、香川、愛媛、福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎、沖縄
開 催 数：全国３８会場（予定）
共　　催：全日本自動車産業労働組合総連合会
後　　援：内閣府、開催都市、開催都市教育委員会等

（２）発達障害児と家族のためのウインターキャンプ 2017 の実施

発達障害児の療育と、その家族のレスパイト及び交流を目的として、ユニバーサル音楽ワークショップの実績を生かし、そのプログラムを折り込みながら、キャンプを通じた様々なプログラムを実施いたします。運営は、ボランティアへの参画と意識の向上を目的として、ボランティアによる実行委員会を組織し実施いたします。

実施主体：ウインターキャンプ 2017 実行委員会
実施時期：平成 29 年２月 18 日～ 19 日の１泊２日
会　　場：ゆうらいふ御殿場（静岡県御殿場市）
対 象 者：発達障害のある子どもとご家族

（２）ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップの実施

障害の有無に関わらず、お互いが尊重し合えるためのコミュニケーションのあり方について学ぶ場として、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについて学ぶ場づくりをいたします。平成２７年度には、これまでの取組を生かし、福島県内の特別支援学校の子どもたちを対象として実施いたしました。引き続き、福島県内の特別支援学校を中心とした子どもたちに体験いただきながら、指導者に対して理解を広げる活動を行って参ります。

実施時期：平成２８年９月
対 象 者：特別支援学校の子どもたち、教職員、ボランティア等

ファシリテーター：
庄﨑隆志さん（office 風の器主宰・俳優・演出家）
メイミさん（漫談家・介護福祉士・NPO法人笑顔工場理事長・港区登録手話通訳者）

2．開発、普及及び育成事業

(1) ユニバーサルスポーツのプログラム開発ワークショップの実施

当過去２年にわたり、ユニバーサルなスポーツ競技の新たなプログラムを開発することを目的として、東日本大震災の被災地である、福島県、宮城県内においてワークショップを行い、屋外活動が制限されている地域において、室内で楽しむことのできる競技開発をテーマに開催いたしました。今年度は、2回目となる福島県内において実施し、障害のある子どもとそのご家族を対象として、スポーツを楽しむことのできるプログラムづくりをテーマに開催いたします。

実施時期:平成28年8月31日（水）～9月2日（金）
会　　場：福島県立大笹生養護学校他
対 象 者：教育・福祉等の専門職員及び学生等

（３）各事業報告書の発行

障害のあるなしに関わらず、共に楽しむことのできる手法で、様々な事業展開をしている中で、その考え方や手法を、多くの方に知っていただき、様々な活動の中で取り組んでいただけるよう、報告書として整理し配布いたします。

（４）ニュースレターの発行

当基金が設立以来、事業活動の基礎とし周知に務めている障害のあるなしに関わらず共に楽しみ、取組ながら相互理解を深めていくための「ふれあいの広場」事業を、その理念や活動内容、プログラムの手法などの情報を掲載した機関紙「ないすはあと」を年４回発行し、多くの方々にこの活動の理念を知っていただくため、内容の充実に努めていきます。

発 行 月：６月、９月、１２月、３月
発 行 数：各２，０００部。当基金ホームページにおいても掲示。無償配布。

3．調査研究事業

（１）ユニバーサルスポーツプログラム研究会の実施

新たな取組として、「ふれあいのスポーツ広場」で実施している、ユニバーサルなスポーツプログラムをより深化させ、同様な取組を行っている様々な立場の指導者の相互研究の場として研究会を組織化し、プログラムづくりと指導者交流の場として位置づけます。

研究会での調査・討議内容は、報告書として刊行し、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

（２）ユニバーサル音楽ワークショップ研究会の実施

「ユニバーサル音楽ワークショップ」で生まれた課題や、新たな手法を研究し、ワークショップという手法の有効性を確認しながら、新たなプログラムの枠組みを検討していくために、研究会を組織し、専門家を交えて検討してまいります。

研究会での調査・討議内容は、報告書として刊行し、広く周知すると共に、理解者を広げ障害のあるなしに関わらず共に取組ことのできるプログラムの裾野を広げてまいります。

ふれあいのスポーツ広場上半期の開催日程

自動車総連の皆様の心強いご支援により全国各地にて展開している「平成２８年度ナイスハート・ふれあいのスポーツ広場」は、４月より上半期の開催を迎えます。現在２０会場を予定しております。

No.	開催地	日程	会場
1	宮城	4 月 16 日（土）	元気フィールド仙台
2	宮崎	4 月 18 日（月）	宮崎県体育館
3	群馬	4 月 23 日（土）	ニューサンピア高崎
4	岡山	5 月 14 日（土）	倉敷市水島緑地福田公園体育館
5	石川	5 月 16 日（月）	いしかわ総合スポーツセンター
6	富山	5 月 21 日（土）	富山市八尾スポーツアリーナ
7	広島	5 月 21 日（土）	広島市東区スポーツセンター
8	岩手	5 月 23 日（月）	盛岡体育館
9	香川	5 月 25 日（水）	善通寺市民体育館
10	長野	5 月 28 日（土）	須坂市北部体育館
11	栃木	5 月 28 日（土）	宇都宮市清原体育館
12	福島	6 月 4 日（土）	須賀川アリーナ
13	茨城	6 月 4 日（土）	古河市中央運動公園総合体育館
14	福岡	6 月 6 日（月）	北九州市立総合体育館
15	愛媛	6 月 8 日（水）	ツインドーム重信
16	岐阜	6 月 8 日（水）	わかくさ・プラザ
17	京都	6 月 12 日（日）	京都市障害者スポーツセンター
18	山口	6 月 12 日（日）	ソルトアリーナ防府
19	山梨	6 月 13 日（月）	小瀬スポーツ公園
20	兵庫	6 月 15 日（水）	加古川市立日岡山体育館

ナイスハートなご支援をありがとうございました

当基金が事業を行うための運営資金として、寄付金と賛助会員の会費が重要です。より多くの方々が趣旨をご理解いただき、ご厚志を賜りますようお願い申し上げます。

■賛助会員　賛助会員会費　１口　１万円

12 月から３月までの間にご厚志をいただいたみなさま（順不同／敬称略）

【寄附金】高良 明枚様

【特定寄附金】IH Story 南長崎入居者一同様